

「かんざき塾」とは

私たちの住む神崎地区は松前町東部地域にあり、戸数約460戸、1,500人が住み、閑静な田園に囲まれた旧北伊予地区の中心集落です。その神崎で「かんざき塾」を始めました。

現在、役員（会長1、幹事4、監事1）のうち4名が高齢者で、その高齢者パワーで進めています。

「かんざき塾」は、子どもたちを交えた異世代の住民が一緒になって、私たちの古里「神崎の昔と今」を学ぶ中で、郷土愛を育み、地域づくりを目指しています。

まず、将来を託す子どもたちに生まれ育った古里を知って欲しい一心から、「私たちの古里 神崎の昔と今」を映像と野外巡検で楽しく学習しよう」というキャッチフレーズで、小学校高学年の児童に呼びかけ「かんざき塾」を4年前の平成21年春始め、2年次からは性別や世代を問わず多くの住民に呼びかけました。

その内容は、「神崎の昔と今」をパワーポイントで編集した映像で学んだあと、現地を見て回り自分の足と目で確認します。また地区外の講師や地元高齢者からも話を聞き、改めて神崎のよさを発見する郷土学習です。共に学ぶことで住民相互の「和と輪」を築き、絆を強め、地域づくり・むらづくりを推進する中で、コミュニティの再生・活性化を目指しています。

世話人は主宰を含め5名、活動は神崎集会所を使わせていただき、年間7回程度（延べ

特集6

「かんざき塾」と地域づくり



かんざき塾 主宰 高石 勤

10日前後、日曜日の午後行っています。

今までの活動

初年の平成21年度は、小学校高学年の児童わずか15名でスタートしました。子どもたちは学習塾やスポーツ少年団（スポ少）などで余裕がなく、思った人数が集りませんでした。が、年間4回行う



野外巡検（赤坂泉付近）

ことができました。中には保護者が参加されたこともあります。

初年度の主な活動内容は、「神崎の境界と小字（ホノギ）」、「お盆の行事「大念仏」、「水紀行」、「郷土料理」です。「水紀行」については、2台の車で赤坂泉、明和の水論発祥地（砥部町八倉）や松山市森松の夫婦泉などを見て回りました。1年間に実施したのはわずか4回でしたが、それでも子どもたちは神崎に興味や関心を持ち始めたように感じました。またお世話する大人との触れ合いから多くのものを習得したようです。

戸惑い、試行錯誤しながらも、子どもたちの耀く瞳に勇気づけられ、まずまずのスタートが切れたと思っています。

2年目の受講生は、対象を神崎総ての住民に拡大したところ、40名余りと多くなりましたが、高齢の女性を中心に、最も期待する子どもたちは数名しか集りませんでした。

この年に追加した内容は、「亥の子」、「しめ縄づくり」などで、初年度との違いは、実施回数や自治会と共催で行う行事数を増やしたことです。その中には、各組毎に行っていた亥



野外巡検（神崎地区内）



元気に亥の子をつく子どもたち

特集 まだまだ、若い者には負けられん!!



野外巡検（面河ダム）

4年目の今年度は、俳人夏井いつき氏を講師として迎え「句会ライブ」俳句つて楽しい」を行いました。また、「町並み保存と古里神崎の再発見」では町並み保存の見学で卯之町へ、翌日は岡崎直司氏を迎え目から鱗が落ちる話を伺いました。「水紀行」では、西条のうねきや黒瀬ダムを見学し、翌日の神崎の水事情では、地元水口孝雄氏から渇水時の貴重な体験談を聞きまし

た。また「まつり」では、神崎の獅子舞と西条まつりの川入りを見学しました。さらに子どもたちが大喜びした「凧づくり」、最終回の「郷土料理」では、塾生や子どもたちが作った美味しい節句料理をみんなで味わいました。

活動内容は、「面河ダムと道前道後用水」では吉田までバスによる遠出の巡検や見学を行うことができました。年間6回（延べ9日）行った「かんざき塾」は、部外講師を3回招き充実した内容となりました。さらに地元高齢者や経験者の方々からの貴重な体験に基づく話など、質量とも所期の目標に近づいた年になりました。これは、この年から行政機関の援助を受けるようになり、思い切った活動ができるようになったことも大きな要因です。

の子を集会所グラウンドに集め亥の子大会を始たり、しめ縄を三世代で作り、世代間の交流を深めたことなど、以前とは様変わりしました。

このような地域の生活文化がいつぱい詰まった伝統行事は、今後も自治会と連携し大いに振興していくつもりです。

3年目は、大人45名、子ども8名、松前史談会からも数名加わり大勢になりました。しかし愛護部にも働きかけましたが、子どもたちの参加が少ない悩みは解決されていません。

点から線へ、そして面へ

発足当初1、2年次の「かんざき塾」の活動は小さな「点」でしかありませんでした。しかし、子どもたちは少人数ながら驚くほど興味関心を示し、地名や行事の謂れや由来はもとより、亥の子やしめ縄づくりなど、協働で行う行事や体験学習、高齢者との交流など積極的に参加しました。子どもたちは一段と成長し、心の変容も見られるようになりました。

また、地域の高齢者を中心とする大人の受講生は年々増加しました。4年次は1回の出席者は常に40名を越し、年8回（延べ12日）行い、その内20名弱が皆勤でした。

年次を追うごとに「塾にきてよかった」、「あまりにも地域のことを知らずに暮らして

いた」、「友だちできて塾に来る日が楽しい」など、受講生の意識も大きな変化が窺えます。地域を見る視点も変わってきたのです。

3年次くらいから点と点を結ぶ「線」になり、そして4年次の今年度は線から「面」に広がろうとしています。

これから行事ごとに反省を重ね、受講生の目線に立ち、神崎の皆さんとともに地道に活動



郷土料理を手伝う子どもたち



出来あがった凧をもつ子どもたち

を続け、「神崎に住んでよかった」と思っていただけの活力ある地域づくり・むらおこしを目指し歩み続けます。

これからも行事ごとに反省を重ね、受講生の目線に立ち、神崎の皆さんとともに地道に活動



今年度の活動報告
「かんざき塾」この1年

今年度最後のかんざき塾に
集ったみなさん